

3月1日（火） 卒業式

令和3年度卒業証書授与式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、卒業生と保護者、教職員のみで開催し、167名に卒業証書が授与された。



○式辞 水谷佳延 校長先生 ～ 卒業証書は多くの人々の愛情と善意の『賜』

式辞では卒業を祝うとともに、「3年生諸君は先輩として運動会、由利高祭、そして百周年記念式典において由利高生としてのあるべき姿を1・2年生に見せてくれた。制約下の中でできることを誠実に取り組む姿勢は下級生への模範だった」と述べられた。

また、故立花隆氏の言葉を2つ引用し、「①物事を考えるときは適切なタイミングを逸しないこと ②真偽を疑い、「思い込み」で事を進めないこと」を紹介した。

最後に、「卒業を最も喜んでおられるのは、無償の愛情を注ぎ、これまで大切に育ててこられた保護者、御家族の皆様であると思う。本日をもって卒業し、そして、将来自立した立派な社会人となりますよう、より一層のご支援とご指導をお願いしたい」として、改めてこれまで御協力くださった保護者の皆様への祝辞と感謝を伝えた。



○送辞 在校生代表 佐々木那波さん ～ 先輩方の背中は、とてもたくましく、頼もしい姿
コロナ禍で昨年実施できなかった運動会が開催できたことに触れ、「1・2年生全員が初めての体験であることを理解し、優しく指導してくれた3年生の姿から、私達在校生が目指すべき『由利高生らしさ』を学ぶことができた」と述べた。最後に、「目の前に乗り越えることが困難なほどの大きな壁が立ちはだかったときには、由利高校で培った経験と、友人と励まし合い過ごしてきた日々を思い出し、頑張ってもらいたい」と3年生へのエールで締めくくった。



○答辞 卒業生代表 小松瑠花さん ～ 一步一步、「前へ前へ」「一心不乱」に進んでいく
コロナ禍で学校生活が一変したことに触れ、「入学前に自分たちが思い描いた高校生活とはかけ離れた日常に、気持ちを切り替えて前へ進むには、燃えてしまった首里城の復興と同様、時間がかかった」と当時の本音をのぞかせたが、全校生徒の協力を得て「運動会や文化祭を開催することができ、友人や後輩の笑顔を見たときには、今まで頑張ってきて良かった」と高校生活を振り返った。また、後輩達に向けて、「私たちが1・2年生の時、先輩方に抱いたようなあこがれの存在になることができたのか、私たちには自信がない。しかし、後輩の皆さんが、弱気になりそうな私たちの励みになり、様々な活動を成し遂げることができたことは言うまでもない」と謝辞を述べた。最後に、「進む道はそれぞれ違うが、由利高校での経験や思い出を胸に、そして由利高校生であったことに誇りを持って歩んでいきたい」と決意を新たにしていた。

